

## 視察報告書

1 観察日時 令和8年1月13日（火）・14日（水）

2 観察先 綾部市役所「移住立国あやべについて」  
舞鶴市役所「meemo（ミーモ）事業について」  
京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー  
「防災について」

3 観察目的 所管事務の調査にあたり、他市等の取組を確認

4 観察参加者 ・安藤 利博 ・松田 熊 ・大口 浩志  
・中田 浩二 ・田村 勝

### 5 観察概要

#### 【綾部市役所】

移住・定住促進施策である「移住立国あやべ」の取組状況等について説明を受けた。

#### 【舞鶴市役所】

公共交通施策の公共ライドシェアである「meemo（ミーモ）」の取組状況等について説明を受けた。

#### 【京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー】

防災（主に水害）についての研究取組等について説明を受け、水害時の危険性について各種実験装置で体験した。

### 6 所 感

#### 【綾部市役所】

当市ではどこの自治体でも取り組んでいる移住政策との差別化を図る努力が見られ、それが具体的な成果に結びつけられている理由だと感じた。

その背景には市長のリーダーシップのもとに、ユニークな施策が通りやすい職場風土があることも伺えた。

移住者等で作るボランティア組織「ここらへんのことつたえ隊」が移住者目線で地域の紹介ビデオを作製したり、空き家バンク利用の移住者には自治会加入を条件にし、自治会役員と挨拶廻りする等の地域に溶け込みやすくしているなど、赤磐市でも取り入れたら良いと思われる施策が多くあった。

### 【舞鶴市役所】

当市ではタクシー会社の運行を補完する夜間や休日に運行する形が多い日本版ライドシェアではなく、令和2年度からの実証実験を経て、令和6年度から自家用有償旅客運送（公共ライドシェア）を行っている。

開始にあたってはタクシー会社の理解もありスムーズに立ち上げられたそうだが、当市には戦後の引揚者支援から助け合いの文化があり、路線バスが撤退した後には公共交通バスではなく、地域が共助による自主運行バスの運営を行っていたことが背景にあるとみられる。

赤磐市でも市民バス、A I デマンドタクシーでは行き届かない高齢者の移動手段として、共助による公共ライドシェアは必要であり導入に向け検討を進めたい。

### 【京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー】

水害時の実例に基づき、気づきにくかった特徴（2階建ての住宅でも1階で亡くなつた方が多かった。アンダーパスでは車からの脱出が困難なこと）などの説明を受けた。

その後、他の施設ではできない水害時の貴重な体験をした。特に、水深が30～40cmになるとドアを開けるのは困難なこと、アンダーパスで車が浸かった時にはドアを開けるのが大変なことを体験した。

この体験の機会を捉えて市民にも伝えていきたい。